

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

日本が少子高齢化社会にあることは、誰もが知る「常識」である。だが、その実態を正確にわかっている日本人はいったいどれくらい、いるだろうか。の

書き出しで始まる河合雅司さんの著書「未来の年表・人口減少日本」でこれから起きることと考えさせられた。河合雅司さんは、1963年、名古屋市長の産経新聞社論説委員だ。問題と本質の深刻さを分かりやすく伝えるために、カレンダーのように、一瞥できる年表でメッセージを伝えたことだ。

書き出しで始まる河合雅司さんの著書「未来の年表・人口減少日本」でこれから起きることと考えさせられた。河合雅司さんは、1963年、名古屋市長の産経新聞社論説委員だ。問題と本質の深刻さを分かりやすく伝えるために、カレンダーのように、一瞥できる年表でメッセージを伝えたことだ。

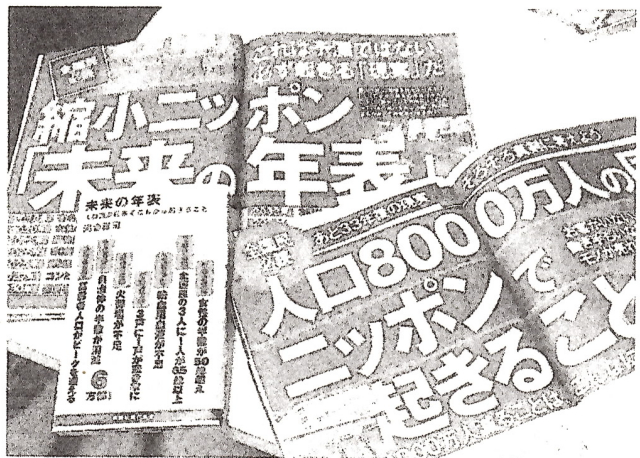
人口減少危機を「静かなる有事の進行」と真剣に捉えてみませんか

2020年女性の半数が50歳超え、2024年全国民の3人に1人が65歳以上、2039年火葬場が不足、2040年自治体の半数が「人口」に限っては、かなり正確に未来予測できると。成熟国家となった日本が突如多産国家に戻るとは考えづらく、しかも母親となりうる若い女性が減少する実態からは避けられない未来だと著者は

2020年女性の半数が50歳超え、2024年全国民の3人に1人が65歳以上、2039年火葬場が不足、2040年自治体の半数が「人口」に限っては、かなり正確に未来予測できると。成熟国家となった日本が突如多産国家に戻るとは考えづらく、しかも母親となりうる若い女性が減少する実態からは避けられない未来だと著者は

50年頃には国王の約2割が無居住化、外国から大量の人々が移り住めば、武力なしで美質的に領土が奪われる「静かな有事」などの

考えさせられる。是非、多くの皆さんに購読を薦めたい著書でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



雑誌「週間現代」でも人口問題を大きく取り上げて報道。自らが直面する課題でもある